

育兒の神様少子部螺贏

奈良縣童話聯盟 仲川 明

大和の國、泊瀨朝倉官ハツセアサクラノミヤに天の下治しめした雄略天皇は、養蠶獎勵の大御心から、侍臣の螺贏スガルに命じて國內の蠶を集めて來る様命じ給ふたが、螺贏は子に誤り考へ、國中からたくさんの子供を集めて來て奉つたさいふ話は日本書紀雄略天皇の項に左の如くのせられてゐるのである。

三月辛巳朔丁亥、天皇、后妃をして親ら桑こきて以て蠶事コカヒを勸めしめむご欲すオモホ。爰に螺贏に命せて、國內の蠶を聚めしめ給ふ。是に於て、螺贏誤りて嬰兒を聚めて、天皇に奉獻オホマツルる。天皇咲まし、嬰兒を螺贏に賜ひて曰く、汝宜しく自ら養へ。螺贏即ち嬰兒を宮墻ミカキの下ホリに養ふ。仍りて姓を賜ひて少子部連チイサコベムラノと爲す。

この螺贏が、その集めて來た子供を雄略天皇から戴いて、自らこれを養ふことになり、少子部連さいふ姓を賜ふたさいふ話は、私達子供の事業に携つてゐる者にまつて、

實に嬉しい説話であります。

少子部 何さいふいゝ名でせう。然もそれが天子様から賜つたさいふ傳説は私達にまつて實に喜ばしいことです。

この恩賜の育兒園のあつた所はどこであるかさいふこみを永年さがしてゐたのですが、こんどそれがわかる事になり、螺贏を祭つた神社もわかつて來たのです。

それは、奈良縣磯城郡平野村飯高イナカいふ所で、その他は昔から子部の里さいつて、すがる田さいふ地名も残つてゐます。こゝに祭られてゐる螺贏神社(又は少子部社)もいふは、螺贏に養はれた子供やその子孫が螺贏を祭つた神社であります。

昔から鬼子母神や子守神社なき、育兒に關する神様はありますが、一つは異國の神であり、一つは母性愛を表す神様であります。世の親が我が子を愛育するのは、世の常の

姿でありますが、育兒院や、託兒所や、幼稚園や、乃至小學校の保姆や先生方は、他人の子供、社會の子供を我子の



(前賢古實所載)

如く愛育したいを念願して、日夜子供を保育してゐる者ですから、これらの人々の神様として、少子部蠅蠃を崇めた

いと思ふのであります。

奈良縣童話聯盟では、去る昭和五年から、全國有志の賛成を得て、古事記を傳へた稗田阿禮を「お話の神」にして毎年八月十六日には「阿禮祭」を行つて來ましたが、それと相對して、「育ての神」にして、この蠅蠃を祭る「すがる祭」をも毎年臨地にて行ひたいと思つてゐます。今年はその第一回として、來る十月十三日(日曜)に行ひます。全國の幼稚園、託兒所、育兒院等、保育事業、育兒事業關係者の御贊同を得御參拜を得たいを存じます。

場所は大阪から伊勢に通じる大軌參宮線で、大和の高田と櫻井の中間、眞菅驛下車北方一杆の所です。

(「すがる祭」當日は眞菅驛から自動車で御案内いたします。尙勝手のわかり難い時は奈良市奈良縣立圖書館内奈良縣童話聯盟へ問合せ下さい。)